

国際学会(The 23rd World Congress of philosophy; WCP) 活動報告書

I. 学会概要

5年に一度開催される哲学の世界大会である。西洋哲学はもとより東洋思想、インド哲学、イスラーム思想などおよそ「哲学・思想・倫理」にカテゴライズされるあらゆる分野が一堂に会する国際学会である。前回の2008年は韓国・ソウルで行われ、5年後の2018年には中国・北京で開催される。

II. 開催概要

開催期日：2013年8月4日-10日

開催地：アテネ大学 哲学学部 (University of Athens, School of Philosophy, University Campus Zografos)

筑波大学発表者：

1) 深澤浩洋 体育系・准教授

セッション名：Philosophy of Sport

発表演題：A basis of the interconnection of athletes in interpersonal athletics: From the perspectives of Nishida's 'I-thou' relationship

2) 林 洋輔 体育系・BAMIS 研究員

セッション名：Philosophy of Sport

発表演題：The problem of health and bodily movements on Descartes as an educator

III. 大会概要

真夏のギリシアは照り付ける太陽の日差しも強く、サングラスの欠かせない日々であった。また会場となったアテネ大学哲学学部は山の上に位置し、広大な建物のうちの至る箇所で多様な哲学の議論がくり広げられた。そこで報告者も学会開催中は各セッションにおける議論に参加するとともに仏語での議論にも挑戦するなど、若手研究者として実り多い機会となるものであった。

さて、報告者は最終日の「スポーツ哲学 Philosophy of Sport」のセッションにおいて発表に臨んだ。具体的には上記の発表表題のとおり、フランスの哲学者・数学者であるルネ・デカルト(René Descartes 1596-1650)の思想のうちでも近年注目されはじめている<教育 *institutio*>に着眼するとともに、彼が<健康 *la santé*>や<身体運動 *les mouvement corporels*>、さらには<身体修練 *des exercices du*

corps>についてもその思索の射程を延ばしていたことについて概括的な発表を行った。というのも、彼の哲学体系のうちでも形而上学 *Metaphysics* や自然哲学 *Natural philosophy*、そして道徳論 *Moral theory* についてはフランスの研究者をはじめとして各国で議論が行われているのに対し、報告者が今回行った発表において取り上げられたデカルトにおける<教育>や<身体修練>、そして<健康>に関する議論は向後の発展が期待される分野と見込まれたからである。発表後におけるフロアからの質疑応答については、デカルト研究史における<身体運動>および<身体修練>の位置づけなどが議論された。

報告者の今学会における発表は論文としての改稿が予定されているほか、すでに国内誌『体育学研究』に掲載が決定された著者の原著論文において¹、今回の発表を受けた進捗状況が示されている。

ところでギリシアは観光立国として著名であるに相応しく、風光明媚な色彩の溢れる魅力的な都市である。その反面でアテネ大学の構内においては適切に作動しないエレベーター、締りの効かないドアなど施設メンテナンスが十分に行き届いていない現状は、この国が直面する経済不況の影を暗に報告者に対して告げるものであった。



<スポーツ哲学 *Philosophy of sport*>のセッションにて質疑に応答する報告者（左）

¹ 林 洋輔 「デカルト哲学における情念と身体運動 習性と予備修練に着目して」 『体育学研究』第58巻第2号掲載予定（受理済）。